

## 第6章 事業プログラム

施策パッケージ	事業概要	予定時期（概ね10年間）			
		前 期		後 期	
1. 南北幹線軸としてのLRTの整備	軌道区間の整備（路面軌道改良および新設）				
	鉄道区間の整備（駅改良他）				
	車両の更新				
	相互乗入の具体化（運行形態、ダイヤ、料金等）				
2. 東西幹線軸となる幹線バスの整備	幹線バス路線の活性化				
	地域バスの検討				
	地域バスの運行				
3. 交通結節の強化	西口広場・東口広場へのバスターミナル機能の導入				
	バスロケーションシステム拡充				
	パークアンドライド駐車場整備				
	サイクルアンドライド駐車場整備				
4. 電車・バスのICT化	ICカード導入の検討				
	バスロケーションシステム拡充				
	電車総合情報システム導入				
5. モビリティ・マネジメントの推進	各種整備事業にあわせたモビリティ・マネジメントの実施				
6. 駐車マネジメントの推進	駐車場への案内強化				
	携帯電話を利用した駐車場情報提供システムの活用・拡充				

## 第7章 都市交通戦略の実現に向けて

現在の福井市は、モータリゼーションが進行し、商業・業務、医療、文化、娯楽等の各施設の郊外立地が進むとともに、鉄道、バス等の公共交通利用者が激減し、公共交通のサービス水準の低下を招く結果となっています。

これからの都市づくりにおいては、低炭素社会、循環型社会、超高齢社会への対応が不可欠であり、早急な対応が求められています。

これには、クルマと公共交通が適切に共存する交通環境を構築し、クルマに頼らなくても日常の生活サービスを受けられる都市環境に転換することが必要です。

移動手段の75%をクルマが占めるように、多くの市民は日常的にクルマを利用することが「当たり前」になっています。この「当たり前」を変えることは容易なことではありません。

本戦略では、鉄軌道と幹線バスによる公共交通幹線軸の整備とこれを補完する地域特性に応じた公共交通サービスを提供する施策を展開しています。

この戦略を効果的に活用するためには、公共交通を利用する住民、サービスを提供する交通事業者、これらを調整し適切な施策を実施する行政が、それぞれの役割を果たしていくことが重要です。

### ●住民（利用者、沿線住民、沿線企業、各種団体）

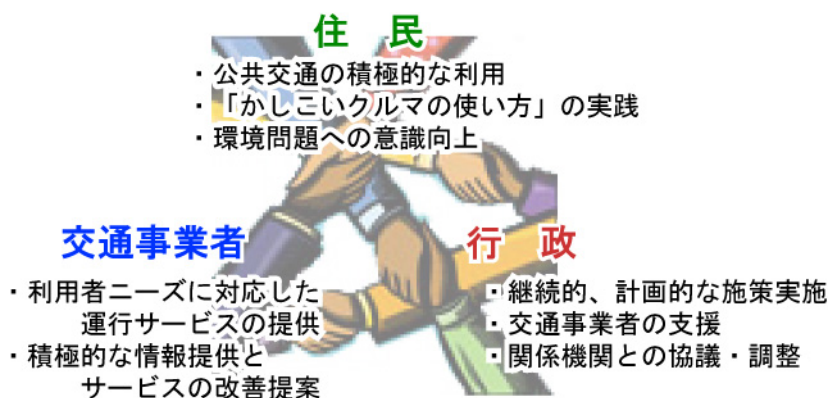
公共交通を実際に利用し、サービスを受ける立場から、現在のクルマや公共交通利用を自ら見つめ直し、クルマ依存から公共交通利用へ転換するとともに、交通環境に関する計画策定や施策の実施に参画し、環境にやさしく誰もが安全で快適に移動できる交通環境づくりに積極的に参加することを期待します。

### ●交通事業者（鉄道、バス、タクシーなど）

住民や行政と連携し、安全で快適な交通サービスの提供や、積極的な事業展開や創意工夫によって、地域交通を担うよう期待します。

### ●行政（国、県、市）

本戦略の推進にあたっては、国、県、市はともに連携に努め、住民、交通事業者と一体となって施策、事業の実施に取り組みます。



## ■戦略が目指すもの

既存ストックを活用しながら、公共交通のサービス向上と利用促進に取り組み、中心部のにぎわいと郊外部の安らぎを結ぶ、誰もが安心して快適に移動できる全域交通ネットワークの構築を図ります。地域にふさわしい交通サービスの確保と利便性向上を進め、過度にクルマに依存した交通環境からの脱却と、環境負荷の小さい公共交通への転換を目指します。

施策展開にあわせて目標の達成状況を確認し、実現に向けて継続的に施策を実施します。

### 1. 市民の公共交通の満足度を高めます

誰もが安全で快適に移動できる交通環境を構築するため、中心市街地、まちなか地区、周辺市街地、農山漁村地域それぞれに交通の目標を掲げ、公共交通サービス水準の向上によって、市民の公共交通への満足度を高めます。

そのため、公共交通幹線軸、地域拠点・乗継拠点の機能強化等の各種交通施策や、商業、業務、住宅、福祉など各分野と連携して総力戦による施策を展開します。

### 2. 市民の生活の足を確保します

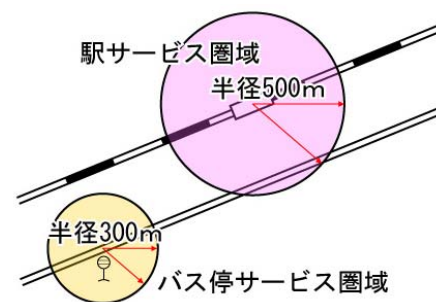
福井市の公共交通サービスは、福井駅周辺を中心とする電車・バス網によって提供されており、現在の公共交通人口カバー率※は 87%で、周辺市街地の一部やバス路線沿線を除く農山漁村地域には公共交通サービスが不便なところがあります。

本戦略では、「全域交通ネットワークづくり」を目標に掲げており、シビルミニマムとしての公共交通サービスを市域全域に提供するため、地域拠点、乗継拠点におけるフィーダーバス（地域バス）など、地域の特性にあった生活交通施策を展開し、市民の生活の足を確保します。

※公共交通人口カバー率：

福井市の人口に対する電車、バス等による公共交通サービスを受けられる人口の割合

サービスの対象範囲は、駅の場合には半径 500m、バス停の場合には半径 300mの圏域としています。



■駅、バス停のサービス圏域

### 3. 環境にやさしいまちづくりに貢献します

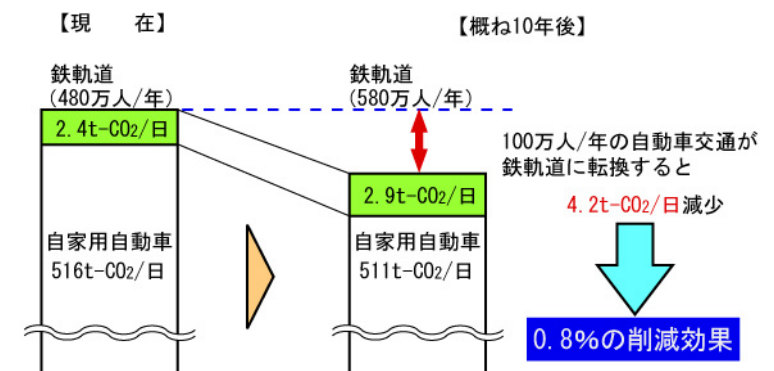
地球温暖化対策として、低炭素社会への転換が求められています。環境にやさしい公共交通を維持・拡充するとともに、市民一人ひとりに「かしこいクルマの使い方」等の情報提供を行い、交通や環境への関心を高め、クルマから公共交通への転換を促すことで、二酸化炭素排出量(CO<sub>2</sub>)の削減を図り、環境にやさしいまちづくりに貢献します。

人ひとりを運ぶ際に排出されるCO<sub>2</sub>の量は、鉄道が自家用自動車の約1/10、バスが約1/3です。公共交通サービスが衰退し、クルマ利用が増えればCO<sub>2</sub>排出量は増加してしまいます。

現在、えちぜん鉄道、福井鉄道の利用者数は年間480万人になります。仮に鉄軌道利用者がすべてクルマ利用になったとすると、自家用自動車からのCO<sub>2</sub>排出量は約3.9% (20.3 t-CO<sub>2</sub>/日) 増加することになります。

また、概ね10年後の鉄軌道利用者数は、えちぜん鉄道では年間利用者数380万人(60万人増)、福井鉄道では福井鉄道福武線活性化連携計画において年間200万人(40万人増)を目標としています。

これらの目標による年間100万人の利用者増は、クルマからの転換としてCO<sub>2</sub>排出量に換算すると、0.8% (4.2 t-CO<sub>2</sub>/日) 削減に相当することになります。



# 資料偏

## 用語解説

### 1. LRTシステム

#### LRT、LRV

- ・LRTとは、Light Rail Transit（ライト・レール・トランジット）の略。
- ・従来の路面電車の走行性能や走行環境等を大幅に向上させた「次世代路面電車」による公共交通システムのこと。
- ・振動が少なく低床式で乗降が容易な車両と、専用軌道・優先信号やパーク・アンド・ライド等の施策と組み合わせて、人や環境に優しい交通を実現するシステム。

※LRVとは、LRTシステムに使われる車両のこと。



■LRV（広島市）

### 2. 幹線軸を補完するサービス

#### コミュニティバス

- ・地方公共団体等がまちづくりなど住民福祉の向上を図るため、自らが主体的に運行を確保するバスのこと。
- ・例えば、交通空白地域・不便地域の解消、高齢者等の外出促進、公共施設の利用促進を通じた『まち』の活性化等を目的とするものがある。
- ・福井市ではすまいるバス（4系統）を運行。



■すまいるバス

#### フィーダーバス、ホーム to ホーム

- ・フィーダーは枝という意味。
- ・幹線交通サービスと住宅地・集落を駅・バス停を介して連絡するバスのこと。

※ホーム to ホームとは、同じホームで電車からバスに乗り継ぐことができるなど、乗り換えの不便さを軽減する



■フィーダーバス ■ホーム to ホーム（富山市）

#### 乗合タクシー

- ・乗合バスとタクシーの中間的な役割を果たす以下のもの。
  - ・深夜や早朝に駅と団地を結ぶコースを中心に運行するもの。（団地型）
  - ・廃止されたバス路線やバスの運行していない地域を運行するもの。（過疎地型：最近増加）
  - ・バスの通れない狭隘な道の多い観光地で運行するもの。（観光地型）
- ※定時定路線型でなく、予約等に基づいて運行を行うデマンド方式も増加。

### 福祉有償運送サービス

- ・タクシー等の公共交通機関によっては要介護者・身体障害者等に対する十分な輸送サービスが確保できない場合に行うドア・ツー・ドアの個別輸送サービスのこと。
- ・NPOその他の法人等が、営利とは認められない範囲の対価によって、乗車定員 11 人未満の自家用自動車を使用して当該法人等の会員に対して行う。



■福祉有償運送サービス

## 3. 公共交通とクルマ、自転車の乗り継ぎ

### パーク・アンド・ライド（P & R）

- ・駅や停留所の近くの駐車場までクルマを利用して移動し、そこから公共交通機関を利用して移動する方法。
- ・鉄道と乗り継ぐ場合がパーク・アンド・ライド。
- ・バスと乗り継ぐ場合がパーク・アンド・バスライド。



■P & R 駐車場（鯖江市）

### サイクル・アンド・ライド（C & R）

- ・駅や停留所に設置されている駐輪場まで自転車を利用して移動し、そこから公共交通機関を利用して移動する方法。
- ・鉄道と乗り継ぐ場合がサイクル・アンド・ライド。
- ・バスと乗り継ぐ場合がサイクル・アンド・バスライド。

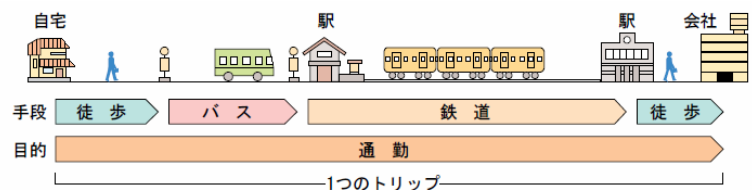


■C & R 駐輪場（浅水駅）

## 4. その他

### パーソントリップ調査

- ・パーソントリップとは、人の動きのこと。
- ・人が、どこからどこへ、どの目的・交通手段で、いつ動いたかについて、1日の動きを調査したもの。



■トリップの例

## ICT

・「ICT」とは、Information and Communications Technology の略で情報通信技術のこと。

## CTC

・「CTC」とは、Centralized Traffic Controlの略で、列車集中制御装置のこと。鉄道において路線や一定区間の単位で信号や分岐器の連動装置を一箇所から遠隔操作できるようにしたシステムのこと。

## シビルミニマム

・日常生活上、最低限確保すべきサービス水準のこと。

## シームレス化

- ・シームレスとは「継ぎ目のない」という意味。
- ・複数の交通手段において、乗り継ぎ、乗り換えを便利にする以下の施策等をさす。
- ・待ち時間を短縮するためのダイヤ調整。
- ・路面電車の駅前広場乗り入れ。
- ・鉄道とバスを同一ホームで乗り継ぐ「ホーム to ホーム」の導入。



■駅前広場乗り入れ（鹿児島市）

## モビリティ・マネジメント


- ・モビリティとは移動のこと。
- ・移動の主体である一人一人とアンケートなどでコミュニケーションを図り、クルマの使いすぎの是正など、社会にも個人にも望ましい方向へ、自発的に行動を変化させること。

## ■福井市都市交通戦略協議会からの報告書

平成21年2月18日

福井市長 東村新一様

福井市都市交通戦略協議会

会長 川上洋司 

### 「福井市都市交通戦略（案）」策定について（報告）

福井市都市交通戦略協議会では平成19年度から2か年をかけ、誰もが手軽に利用でき、人にやさしく便利な「全域交通ネットワーク」の構築を進めるために、必要な施策について協議してまいりました。

ここに、協議結果がまとまりましたので、「福井市都市交通戦略（案）」として、次の意見を付して別冊のとおり報告します。

### 記

- 1 人口減少や超高齢・少子化社会の到来、地球規模での環境問題の深刻化などへの対応を図るために、公共交通の利用促進を基本とし、人にやさしくにぎわいとやすらぎのまちづくりをめざした、福井型全域公共交通ネットワークづくりを進めていただきたい。
- 2 施策の推進にあたっては、国、県、市が役割を明確にし、それぞれが責務を果たしていただくとともに、関係者と十分に調整を図り、慎重に進めていただきたい。
- 3 都市交通戦略の内容をわかりやすい形で積極的に市民に周知するとともに、自動車から公共交通への転換についての市民の意識を醸成していただきたい。



■福井市都市交通戦略の策定経過（フロー）

都市交通戦略協議会		
■第1回会議	平成19年6月6日	委嘱・審議
■第2回会議	平成19年10月5日	審議
■第3回会議	平成19年12月12日	審議
■第4回会議	平成20年2月22日	審議
■第5回会議	平成20年3月24日	審議・中間報告
■第6回会議	平成20年7月29日	審議
■LRT専門部会		審議
第1回部会	平成20年10月14日	
第2回部会	平成20年11月7日	
第3回部会	平成20年12月22日	
■第7回会議	平成21年1月16日	審議
■第8回会議	平成21年2月6日	審議
■第9回会議	平成21年2月16日	審議・（案）のとりまとめ

市長報告（2/18）

都市交通戦略の決定		
■庁議	平成21年2月20日	決定

パブリック・コメント

- 募集期間 平成20年7月30日～8月16日
- 公表した案及び資料の名称  
福井市総合交通計画案
  - 第1章 福井市の都市交通の現況と課題
  - 第2章 将来都市像
  - 第3章 都市交通政策の基本方針
  - 第4章 将来都市像の実現に向けた都市交通のサービス目標
- 意見提出状況  
提出者 16人 : 提出件数 50件

■福井市都市交通戦略協議会 委員名簿

所属および役職	氏 名		備 考
	平成 20 年度	平成 19 年度	
福井大学大学院教授	川上 洋司		会 長
福井県立大学経済学部准教授	浅沼 美忠		副会長
福井市自治会連合会副会長	町井 廣		
福井県高等学校PTA連合会会長	村田 博宣	山本 恵司 吉岡 正盛	
福井商工会議所青年部直前会長	村中 洋祐		
NPO法人福井まちなかNPO理事長	永井 弘明		
NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会会長	内田 桂嗣		
駅前5商店街連合活性化協議会代表	加藤 幹夫	木本 友彦	
福井商工会議所地域振興部長	嶋田 浩昌		
(財)福井観光コンベンション協会常務理事	橋本 浩		
西日本旅客鉄道(株)金沢支社企画課長	藤田 欽司	藤本 由光 藤田 欽司	
えちぜん鉄道(株)取締役兼計画部長	島 洋		
福井鉄道(株)常務取締役鉄道部長	今枝 孝司		
京福バス(株)経営推進室部長	安宅 道人	矢崎 孝明 安宅 道人	
福井鉄道(株)自動車部長	池田 光一	福田 有男 池田 光一	
国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課長	奥田 謁夫	田雑 隆昌	
国土交通省中部運輸局企画観光部交通企画課長	栗原 弥生	小林 基樹	
福井県警察本部交通規制課長	白崎 典孝	大橋 直和	
福井県総合政策部企画幹(交通対策)	笹井 博見		
福井県土木部都市計画課長	木村 正二	谷口 利重	

■福井市都市交通戦略協議会 L R T 専門部会 委員名簿

所属および役職	氏 名	備 考
福井県立大学経済学部准教授	浅沼 美忠	部会長 戦略委員
駅前5商店街連合活性化協議会代表	加藤 幹夫	戦略委員
西日本旅客鉄道(株)金沢支社企画課	藤田 欽司	戦略委員
えちぜん鉄道(株)取締役兼計画部長	島 洋	戦略委員
福井鉄道(株)常務取締役鉄道部長	今枝 孝司	戦略委員
京福バス(株)経営推進室部長	安宅 道人	戦略委員
福井県警察本部交通規制課長	白崎 典孝	戦略委員
福井県総合政策部企画幹（交通対策）	笹井 博見	戦略委員
福井県土木部都市計画課長	木村 正二	戦略委員
福井県土木部道路保全課長	中村 純一	道路管理者
福井市建設部監理課長	齋藤 龍一	道路管理者

---

## 福井市都市交通戦略

平成 21 年 2 月発行

福井市都市戦略部交通政策室

〒910-8511 福井市大手 3 丁目 10 番 1 号

TEL (0776)20-5138

E-mail [koutu-s@city.fukui.lg.jp](mailto:koutu-s@city.fukui.lg.jp)

---